

くに 越えて 歌を 詠む

先日の新聞に載っていた内容です。ロシアからの軍事侵攻が続くウクライナで歌を詠む東部ハリコフ出身のウラジスラバ・シモノバさんが綴った歌です。意味が分かるでしょうか？

Children are playing Flying their paper airplanes In the bomb shelter.

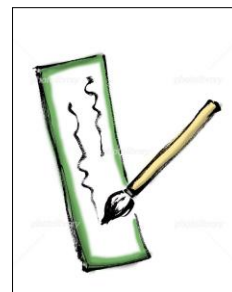
直訳すると

防空壕の中で 紙飛行機を飛ばして 子どもたちは遊んでいる。

この作品に代表されるように日常が戦争に飲み込まれ、見慣れた景色が色を失っていくさまを鮮烈に表現されたウラジスラバさんの作品に、心を打たれた俳人の 黛 まどかさんが応答されています。

地下壕の 紙飛行機や 子らの春

日本の伝統文化である俳句 17音の中に戦争の悲惨さとその中で生きる人々の有り様がしみじみ伝わります。子どもたちが地下壕でなく屋外で安心して紙飛行機を飛ばせる世界にしなければと思います。



新春に歌を詠む

これも新聞に載っていた内容です。新春恒例の「歌会始の儀」が18日、皇居宮殿で開かれました。題は「友」です。2つの句をご紹介します。

天皇陛下：「コロナ禍に 友と楽器を 奏でうる 喜び語る 生徒らの笑み」

これは2021年和歌山県で開かれた国民文化祭で吹奏楽部の高校生とオンライン交流を陛下がされた時に、生徒たちが制約のある中でも練習を続け、友だちと一緒に演奏できる喜びを語った姿をうれしく思われて詠まれた歌と解説がありました。

天皇長女 愛子さま：「もみじ葉の 散り敷く道を 歩みきて 浮かぶ横顔 友との家路」

これは愛子さまが友人と歩かれた学校の帰り道を思い出し、懐かしさを詠まれた歌と解説がありました。

日本の伝統文化である短歌 31音の中に学校生活で友だちと共有する時間の有り難さを伝えていただいています。

三年生が詠んだ歌

同様の風景は南阿蘇中学校の日常にもあります。3年生が詠んだ俳句と短歌を紹介します。

夏休み プールに急ぐ 友と我

友達の 声も聞こえぬ スピードで 自転車でかける 下り道

なにげない日常の中に豊かな色を持った景色がありますね。戦争がなく、学校生活が送れる日本に感謝しています。大人になって振り返った時に、温かい思い出となるよう、これからも友だちと過ごしていきましょう。



進路決定に向けて

入試が始まりました。1月17日(火)、18日(火)は私立高校の専願、奨学・特待生の入試がありました。本校からは38人の生徒が受験しました。多くの学校で3～5教科のテストの後、面接があります。3年生は教科のテスト勉強の他に昨年の12月から複数の先生方を面接官として面接の練習を行ってきました。合計で8回ほど自主的に面接練習を行った生徒もいます。私も面接官として練習に参加しましたが、志望動機、将来の夢、中学校で学んだ事、頑張った事などの質問に3年生は自分の考えをしっかりと伝えることができていました。後は体調管理をしっかりして当日に備えてください。

来週以降も入試は続きます。(以下一部抜粋)

- 1月 21日(土) : 国立高専推薦選抜
- 1月 24日(火) : 公立高校前期選抜
- 2月 12日(日) : 国立高専学力選抜
- 2月14、15日(火、水) : 私立高校一般入試
- 2月21、22日(火、水) : 公立高校後期選抜



一部の入試日だけ書きましたが、この他にも合格発表日、招集日、関係書類・入学金提出日などそれぞれ異なります。3年生の先生方は3年生の皆さんに「自分の進路のことなので親任せにせず、必ず自分で日程を確認して親さんと一緒に進路決定に臨むように」と話されています。

また、これからは合格発表もあります。合格する人もいれば不合格の人もいます。厳しい現実ですが、頑張っても不合格になることもあります。

また、全員が同じ日に発表があるわけではなく、学校毎に発表日は異なります。自分の周りの「友」に思いを馳せて声かけを行ったり、行わなかったりしてください。

さいきん 最近のニュースから

今週のニュースです。取り調べ中ですが、子どもが親を殺めたり、親が子どもを殺める事件を見ると心が乱れます。

スマホめぐりトラブルか 静岡・女性刺殺

40代女性が刺殺された事件で、児童相談所に通告された長女が事件への関与を認めた上で「母とスマートフォンについて話し合っていた」という趣旨の説明をしていることが18日、捜査関係者への取材で分かった。県警はスマホを巡るトラブルが背景にあったとみて、事件に至った経緯を調べる。

大分・7歳女児死亡 首に絞められた痕 母親が絞殺か

県警によると、17日午前7時半前、容疑者から「娘を殺した」という趣旨の通報があり、駆けつけた署員が寝室で横たわっている女児を発見。間もなく死亡が確認された。容疑者は「間違いありません」と容疑を認めているという。同署には2021年に容疑者から「子供との接し方が分からない」と相談があり、署が児童相談所に連絡していた。容疑者は女児と2人で暮らしていた。

「ぬちどうたから」という言葉があります。「命こそ宝」という意味です。戦争で多くの命を奪われた沖縄で反戦運動のスローガンとして用いられています。「宝である命」を一番身近な家族が奪わなければならない状況に追い込まれた事件、悲惨です。家族への相談が困難な時に相談できる人の存在と役割遂行が重要だと記事を読んで感じました。